

浜嶋です。
こんにちは。

昨日は祝日のため、救急センターから入院するように主治医から指示されました。最初に採血をして検査をします。看護師は白い医療服を着ているけれど、黒い医療服を着た若い女性がやってきた。彼女を見て、「採血は無理でしょ。やばいなあ」と思ったが、させてあげないといけないと観念した。

ベッドに腰をかける。目の前に腕を乗せる台を持ってきた。「低いなあ、腕が届かないぞ。上に上がるはずだよ。気が付いているかな」と思った。研修医は、私の腕をそのまま台に乗せた。手の部分しか乗っていない。腕は宙ぶらりんになっている。

自分であげようかなと思ったが、研修医は、そのまま腕に指を当てて、しきりと針を差し込む血管を探っていた。この台は、何の役にも立っていないことになった。これで、この研修医はダメだと確信した。これからが不安だ。

注射針を差し込む場所を決めたら、「看護師さんに確認する」と言って、場を離れた。「慎重さは評価してあげよう」と思った。看護師がやってくると、看護師はすぐに台を上げた。「当たり前だ。研修医、わかったか」私は、これで納得した。2人で血管部分を抑えながら、場所を確定した。だからといって、うまくいくわけでない。研修医は、何度も確認しながらついに注射針を持ってきた。

目の前で針のケースを外した。しかし、ケースは針の斜め上に前に向かって針とともにある。そのまま研修医は注射針を打とうとしている。「ありえないことだ。この研修医は、どれだけの経験をしたのだろうか」看護師が、何も言わずに手を出して、そのケースを後ろに曲げて、針だけが私の皮膚に近づいた。

針を刺しても血液は流れてこなかった。もう一度刺しなおした。研修医は看護師を見た。すぐに看護師に交替してくれた。看護師もちょっと苦労したが、血液が少しずつでてきた。「このままで我慢してくれ、やり直しはやめてくれ」と願った。幸い所定の分量を採取できた。針を抜いてから、研修医は、止血の綿を乗せて、太いテープで止めた。

「3分間から5分間押さえてください」と言われた。また、すぐに、小さなバンドエイドを持ってきて、これに換えると言いだした。矛盾するでしょう。

「いえ、私がやりますから。そこに置いてください」と断った。これで、研修医の役割は完了した。

私は、研修医の様子を見ていた。止血を続けながら、あの研修医に何か教えてあげたいなと考えた。5分経ってから、「幸田さん、ちょっと来てくれますか」と呼んだ。研修医の幸田さんは、私を一度も見ずに後ろ向きになってパソコン画面を操作していた。名前を呼ばれて、不審な顔をして、看護師を見ながらやってきた。

「幸田さん、私のことを忘れているでしょう」と言うと、

「自分でするからと言われたので・・・」と言い訳した。

「それでも、近くにいるのだから確認するのがあなたの気配りじゃないですか。あなたは、基本的なことがいくつかできなかつたです。最低限のことができなければ、採血する資格はないと思います。しっかりやってください。頑張ってください」と伝えました。

そこに、一緒に作業をしていた若い医師が、やってきて、「この人は1か月前に研修医になったばかりです・・・」

「そんなことは関係ないです。私のことはいいのです。最低限のことができて、一生懸命することが大切なんです。このことを幸田さんに伝えたかっただけです」

これで伝わったかは疑問です。

幸田さんは、針をうまく刺せなかつた理由を看護師に教えてもらうとか、失敗というかうまくできなかったことを反省する様子はありませんでした。これで、真剣に看護師を目指しているのだろうか。祝日対応のせいとか、アルバイト気分には見えなかつたです。

さあ、この話は、ボーイスカウト活動とどんな関係があるのでしょうか。皆さんのお叱りの言葉が聞こえてくるようです。

私は、昨日のことは「研修医がやることは、本番ではない」という雰囲気を感じました。もちろん、研修医は重要な判断や処置はしません。でも、患者にとっては、小さなことでも本番なのにそんな気分で処置されたらたまりません。拒否できるのかと真剣に考えました。

このことから考えると、新米の指導者（研修医）とスカウト（患者）の関係に当たるように思います。スカウトや保護者にとっては、指導者が育ってもらわないといけません。そのための応援をしましょう。指導者は、本番をすることの重要性を認識して、最低限でなく、最大限の準備をして、最善を尽くすように努力しないといけません。スカウトは、今が大事です。やり直しはできません。

社会の仕組みは、新米からベテランへの成長の繰り返しで、組織でカバーしながら、うまく進めていきます。ここには、協力体制がありますし、寛容性が必要です。しかし、一生懸命に努力する場合にだけ許されることです。ベテランも手を抜けば、素人と変わりないです。

みんなで協力して、互いに助け合いながら運営し、活動を楽しくしながら、スカウトの

成長を支援したいです。